

Topics from within

APSCC Workshop

“Digital Satellite Broadcasting and Digital Multimedia Broadcasting”

編集委員 風神 裕

2004年3月23日から25日まで、APSCC(Asia Pacific Satellite Communications Counsel) Workshop “Digital Satellite Broadcasting and Digital Multimedia Broadcasting” が韓国済州島ロッテホテルにて開催された。

韓国情報通信省(MIC : Ministry of Information and Communication) が衛星DMB(Digital Multimedia Broadcasting) に対する各国の反応を調査する目的で APSCC に開催を要請したものである。参加登録者160名。出席者は初日120名、2日目100名、3日目90名程度であった。日



本からの参加者は5名。欧米の衛星メーカー(Alcatel、Astrium、LMCSS)やCBBからの出席もあった。登録者160名中、60名が韓国外とのこと。初日はTVカメラまで入り賑っていた。会議の雰囲気をビデオに収録しMICに報告すること。テーマが衛星業界にとって最大関心の一つであるため、質疑応答が活発であった。

衛星DMBをメインテーマに8セッション、3パネルの構成。DMBサービスのトレンド、衛星TVの現状、DMBの市場性、衛星DMBに対する法制面からの制約、衛星放送事業、衛星による配信、端末、通信と放送の融合とアプリケーション、



セットボックス技術、ビジネスモデルをカバーし、衛星 DMB の現状を理解出来るようになっている。報告者は Session 8 "Business Models for New Applications and Services" の Session Chair を担当した。

APSCC プレジデント Dr. Eui K Koh の Opening Address、韓国情報通信省 Mr. Yong-Seob Shin(代理 Lee 氏)の Welcome Address に続き、Keynote Speeches が行われた。KT Mr. Gwang-Ju Seo "The Role of Satellite in Convergence Era"、MBCO Mr. Tetsuya Mizoguchi "Keynote Speech"、TU Media Mr. Joon-Dong Bae "How will satellite broadcasting change life and industry in the area of convergence?" で講演。Workshop 直前に MBSAT の打上を成功させた MBCO からの発表は、Workshop の中でも特に注目された。



Workshop の様子(右から 2 番目が Asiasat 社の Dr. Chui)

韓国政府は国の興隆を情報通信に掛けており、DMB はその柱の一つである。KT や SKT だけでなく、日本ではあまり知られていない衛星通信関連の会社が多数あり、Workshop は韓国の業界を上から下まで全て巻き込んだものであった。衛星 DMB という最新のテーマということもあり、常時 100 人近い人が、終了時間も忘れ、熱心に聴講・議論した。

衛星 DMB は日本・韓国だけでなく、中国やインドも関心を寄せており、今後アジアにて大きく展開される可能性がある。

以上